

環境と健康

発行者

一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
広島県環境保健協会

佐藤 均
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号 730-8631
電話 082-293-1511番
振替口座01380-2-27511
URL http://www.kanhokyo.or.jp/

坂町で第56回広島県公衆衛生大会開催 県内各地から700人が参集

第56回広島県公衆衛生大会が、12月10日に安芸郡坂町にあるサンスタールで開催され、あいにくの雨模様のなか、県内各地から公衆衛生推進委員や行政事務担当者など、約700人が参集しました。



大会宣言を提案する宮本英暉議長

この大会は、公衆衛生の向上に日々努力する個人や団体を称え、知識や体験を交流しあい、真に健康な県民生活の実現に寄与することをねらいに開催しており、式典や講演などを行っています。式典では、県知事、県医師会長及び環境保健協理師会長及び公衆衛生活動において多大な成果をあげた52個人・11団体の功績を称え、表彰状が授与され

ました。次に、地区衛生組織代表者会議の宮本英暉議長より大会宣言文が読み上げられ、瀬戸内海環境保全特別措置法の改正に伴う住民による環境保全活動の重要性を宣言し、会場の大きな拍手によって採択されました(宣言文は右下に記載)。大会宣言に掲げる6つの項目は、向こう一年間の公衆衛生活動の柱となります。

大会宣言

私たち公衆衛生推進委員は、積み重ねられた歴史の中で、あらゆる主体と協働しつつ、自主的・組織的な実践活動とおして、公衆衛生思想の普及向上に努めてきました。しかし、地球温暖化やごみ問題、生活習慣病の蔓延など、深刻かつ緊急を要する課題は後を絶ちません。

本年8月28日に参議院本会議を通過し、9月25日に衆議院本会議で可決、成立した「瀬戸内海環境保全特別措置法の改正」では、住民による継続した環境保全活動が求められており、「快適な環境づくり」がこれまで以上に重要な活動テーマとなります。

私たちは地域の課題に積極的に対処しながら、人々がより快適で健康やかに暮らせる活力あるコミュニティの実現をめざし、これまでも増して地域リーダーとしての機能を発揮していく必要があります。

そこで、「健やかな暮らしをつくる人々の集い」をテーマに開催するこの大会を契機に、次の6つの項目について、より積極的・効果的に取り組む決意を示し、地域リーダーや関係者一同の情熱と知恵と行動力を結集し、その実現に向けてまい進することを宣言します。

- 一.生活空間の美観の確保と快適な環境づくりの推進
- 一.生活習慣の見なおしと実践活動による健康づくりの推進
- 一.あらゆる主体の連携による脱温暖化のまちづくりの推進
- 一.学社融合による環境と健康の実践活動の推進
- 一.ごみ減量に向けた3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進
- 一.上記の5つの項目を実現するためのコミュニティ組織の強化

平成27年12月10日 第56回広島県公衆衛生大会

新年のご挨拶



理事長 佐藤 均

新年あけましておめでとうございます。

公衆衛生推進委員の皆様をはじめ、健康と環境の課題に取り組んでいただいている皆様には、平素から地域に根付いた地道な活動を通じて県民の健康づくりと環境の保全にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

さて現在、健康分野では、広島県の「健康寿命」が全国で男性が30位、女性が46位と低位にあり、これをいかに延伸させるかが大きな課題となっております。また、がん検診においても、受診率50%を目標にしていますが、まだまだ低い状況にあり、受診率向上のための更なる取り組みが求められています。

一方、環境分野では、昨年パリで開催された、COP21で地球の温度上昇を2度未満に抑える目標を決定しました。日本もこれに呼応して温室効果ガスを2030年度に、2013年度比26%削減することを約束しました。そのため、県民一人ひとりの省エネ活動の取り組みが重要となっております。また、昨年9月に「改正瀬戸内

法」が成立し、「豊かな海づくり」にむけての瀬戸内海の環境保全などの取り組みが引き続き求められています。

このように、今年は、公衆衛生の向上に地道に取り組んで参りました公衛協と当協会の活動に対する期待が、益々高まっていくものと確信しております。この期待にこたえるべく、推進委員の皆様との知恵と情熱と行動力を結集して、環境協とともまい進していただきたいと存じます。

当協会は、各市町公衛協の支援を通じてコミュニティの健康づくりと環境保全に貢献することを目的とした団体です。厳しい経営環境にありますが、この目的達成のために職員丸となって頑張っております。

中町、海田町から10人の児童・生徒が出席し、当協会の佐藤理事長から表彰状とトロフィーを受け取りました。最後に全員で記念撮影を行いました。午後は「アトラクション」や「1万人のエコチェック事業おたのしみ抽選会(関連記事2面参照)」を実施。



アトラクションでは、「米作り体験記」八十八の想いをいたたく」と題して、坂町立坂小学校の5年生児童73人による学習発表と合唱が披露されました。児童は、今年学んだ米作りについて、寸劇を交えながら紹介しました。また幼児の頃の写真を背景に合唱する児童のすばらしい歌声に、参加者は感動していまし

ました。最後のプログラムでは、京都大学環境科学センター助教の浅利美鈴先生による「ごみ減量に向けた」ミニミニ活動のあり方〜個人から地域ぐるみへ〜と題した講演を行いました。ごみの排出量の現状や昔と今の比較、これからの生活のあり方などについて、クイズやイラストなどを用いてわかりやすく解説されました(関連記事2面参照)。

最後に、開催地である坂町公衆衛生推進協議会の縫部洋輝会長が閉会のあいさつを行い、大会を締めくくりました。(地域活動支援センター)



一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~ 広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520



基本理念 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~

私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。

